

# たむらソーシャルネット ニュース

## 満二年

## を迎えます

無事に会社設立二年を迎えることができました。振り返れば、ひとつひとつ頂いた仕事を精一杯、私達では不十分なところは、周囲の様々な方々に支えられながら取り組んできた、その結果が一年という日々繋がったと、実感しています。この一年の間には、設立当初予想していなかった取組みを経験することができ、そのことを通じて改めて気づいたこと、考えたことなど私達にとつての学びは本当に莫りあるものであったと感謝しています。婦人会の方々との懇談会、自前の研修会開催、身寄りのない痴呆症の方の独り暮らしへの支援など、なんの実績もない私達を信頼してくださり、何らかの役割を担うというごときをさせてくださった皆さまに、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。地域で納得でき

る仕事をやっていきたいという思いだけで、全く未知数の私達にいろいろな形で機会をいただいたことを、今後も大切にしていきたいと、二年目を迎えるなかで感じていきます。利用している方々の厳しく、当たり前の言葉に耳を傾けながら日々「そうなんだ」という気づきを、これからも積み重ね、私達の糧としていくことができればと感じています。「具体的な支援」を重ねることで「当たり前」の暮らしを支援していきたいという姿勢で今後も引き続き取り組んで参りたいと思っております。まだまだ未熟な私達ですが、頂いた仕事を精一杯取り組み、「いい時」を皆さまと共有していきたいと思っております。今後とも引き続き、ご指導いただきまますよう、よろしくお願い申し上げます。

田村 満子

### 大阪府社会福祉協議会

地域福祉課

課長 山田三吉

たむらソーシャルネットの一年おめでとうございます。一周年おめでとうございます。有限会社を設立して納得のいく仕事をしたという田村満子さんの話を聞いて、大変驚きました。最近では若い女性が起業家として、新しい感覚で事業展開をして活躍されている記事が紹介されていますが、まさか身近な友人がそんなことを考えていたのかという驚きでした。30年を越えた勤め人生活に慣れ親しんでいる私にとっては、田村さんは「勇気ある女性」というところです。今、福祉サービス現場は「行政の措置から利用者が選択する時代へと変わってきています。介護保険が最たるものでしょう。人権が尊重される社会にむけて、利用者選択は「福祉サービス」の質の向上」と「福祉サービスの利用援助」が必須とされてきています。こうした時代にこそ、利用者の思いをきちんと聞き、きめ細やかな、その人らしい暮らしを支えていく事

業者が求められます。たむらソーシャルネットは、代表の田村満子さんを中心に温かいスタッフで、福祉の今後に希望を感じさせてくれます。特に、「町で暮らしたい」と願う痴呆症状をお持ちの方の一人暮らしを支えておられる様子には、心打たれます。

私は88歳の父と78歳の母と暮らしていますが、今まで親が体調を崩したときなどは、ふつと「働きながらどこまで世話ができるかしら」と不安がよぎっていました。でも、今は相談できるところができて少し安心です。将来、必要になったら私の任意後見も頼もうかなと思ったりしています。田村さんは私のことを注目の多い利用者になるだろうと笑っていますが、当たりです！注目の多い利用者は「生きる」ことを大切にしている人です。「人生」とは、「人」として生きる「という意味なのですから。

今後益々、たむらソーシャルネットが利用者信頼され喜ばれる仕事がいっぱいできまう心から祈っております。





会えるから。専門職の方とお話するとどうしてもお母さんの事が中心になってしまう。いろんな人と話す事でガスぬきができるの。」ととても明るい笑顔で教えていただきました。



編集後記

たむらソーシャルネットが満一歳となり、「何をしてはるの？」という質問にそろそろ答えなければ・・・と、今回のニニースの発行となりました。いつも支援してくださっている方々や、サービスをご利用中の皆さま、地域の方々には感謝の気持ちをこめて、初めて見ました、聞きましたという方にはご挨拶になるものをという内容にしたのですがいかがでしたでしょうか。このニニースは今後も定期的に発行したいと考えております。

今回のニニース発行にあたり、ご協力くださいました、山田様、西野様、野木様、酒井様、ありがとうございます。ニニースの内容や、たむらソーシャルネットの事業に関して、ご意見、ご助言ございましたら是非スタッフまでおねがいします。 [N・A]

院。それから3日だけ山本病院に再入院し、羽曳野の施設に入所。平成9年12月から平成11年5月までそこに居て、それからここ帝塚山に入所に至る。

『言葉に囲まれ玲風苑、万代池の辺に生きた甲斐求め、我ら家や住言区内に花が咲くああ嗚呼！我らの特別養老人ホーム』

『城北の堤防に登り心晴れ』西野 作

「介護の秘訣はリフレッシュ」

酒井 幸志 様

酒井さん(明治44年生まれ)は現在、長男さんのご家族と同居されています。自営業を営んでおられるため、酒井さんの介護、お食事の準備などは他の息子さんのご家族と交替でされています。いつも元気なひろこさん(長男の妻)、これが秘訣なのかな？と感じた言葉がありましたのでご紹介します。「お母さんと真正面向き合ったらダメ、きつとしんどくなってしまう。昼間は仕事をしてお母さんのことをちょっと忘れて、すると会ったときには笑って

「住言区内に花が咲く」

西野 忠三郎 様

西野さんは、現在大阪市住言区にある帝塚山特別養護老人ホームに入所されています。平成12年より、月一回たむらソーシャルネットの外出支援サービスを利用しています。このニニース発行にあたり、西野様にお話をおうかがいいたしました。

紀元2590年、1930年

昭和5年11月16日血液O型 75歳

昭和60年からぼちぼちと足やら腕やら動かんようになってきた。服着るのも難儀してきた。歩くのもぼちぼち困難になり便所に行くのもつたい歩き、ベッドに寝るのにも難儀になってきた。平成9年4月2日午後9時、テレビ見てたら急に倒れて起きられへんようになった。誰もいなくて大声出して隣の人がベランダから妹の家の電話番号でかけてもらい10時半頃来てくれて、一日おいて4日に上二病院に2ヶ月入院し、5月27日阪和病院に行き、12月18日まで入

「独りだって淋しくない」

野木 春乃 様

現在野木さんはお一人暮らしをされています。ご主人を終戦後間もなく亡くされ、それ以来独りになりました。年を追うにつれて「家の事も歩くのさえも大変になってきた。」と話されます。たむらソーシャルネットでは生活全般の支援を行っています。食事の準備をはじめとする家事や入浴のお手伝い、日課である散歩の同行、ピアノ教室への送迎など。また、デパートでのお買物や外食などの外出時にも付き添っています。「家の中で色々な手伝いしてもらおうのもいいけど、出かける時に来てもらう方が楽しいわ。外に出ることでおいしいものが食べられたり、珍しい物が見られたり、年をとっても楽しめないとおね。」現在86歳の野木さん。ますますお元気で楽しい毎日を。

〒542-0066

大阪市中央区瓦屋町3丁目2-124

TEL 06-6766-7071

(有)たむらソーシャルネット